



議会だより



小矢部市議会議会報告会

平成 23 年 5 月 19 日に議会報告会が小矢部市総合会館と津沢コミュニティプラザで同時に開催されました。

6月定例会の概要

6月10日から24日までの15日間を会期として開催しました。

初日は平成23年度小矢部市一般会計補正予算(第1号)など議案7件、最終日には、財産の取得の議案1件及び議員提出議案2件が追加上程され、計10議案を原案のとおり可決しました。

また、クロスランドおやべの経営状況など5件の報告、人事案件1件、議員派遣の可決を行いました。

目次

概要	1
審議経過	1
可決議案・報告事項	2
意見書(議員提出)	2
人事案件	2
陳情の処理状況	2
代表・一般質問	3
議会報告会	7
委員会報告	8
会務報告	9
編集後記	10

6月定例会の審議経過

10日	本会議(提案理由説明)
	全員協議会
13日	議案調査日
14日	議案調査日
15日	議案調査日
16日	議会運営委員会
	本会議(代表・一般質問)
17日	本会議(一般質問)
20日	行財政改革特別委員会
	民生文教常任委員会
21日	まちづくり特別委員会
	産業建設常任委員会
22日	総務常任委員会
23日	委員長会議
24日	議会運営委員会
	全員協議会
	本会議(質疑・討論・表決他)

6 月定例会で可決された議案

- (補正予算)
議案第31号 平成23年度小矢部市一般会計補正予算(第1号)
- (条例の制定)
議案第32号 桜町JOMONパーク条例の制定について
- (条例の一部改正)
議案第33号 倶利伽羅源平の郷埴生口地域振興棟条例の一部改正について
- 議案第34号 小矢部市下水道条例の一部改正について
- (その他)
議案第35号 倶利伽羅源平の郷埴生口の指定管理者の指定について
- (専決承認)
承認第4号 専決処分事項の承認について
 専決第3号 小矢部市税条例の一部改正について
- 承認第5号 専決処分事項の承認について
 専決第4号 小矢部市税条例の一部改正について
- (追加議案・議員提出)
議員提出議案第5号 小矢部市議会基本条例の一部改正について
- 議員提出議案第6号 震災からの復興に向けた補正予算の早期編成を求める意見書
- (追加議案・その他)
議案第36号 財産の取得について
- (人事案件)
同意第2号 小矢部市固定資産評価員の選任同意について

6 月定例会で報告された事項

- (経営状況等報告)
報告第1号 平成22年度小矢部市繰越明許費繰越計算書の報告について
- 報告第2号 平成22年度小矢部市事故繰越し繰越計算書の報告について
- 報告第3号 小矢部市土地開発公社の経営状況報告について
- 報告第4号 財団法人小矢部市体育協会の経営状況報告について
- 報告第5号 財団法人クロスランドおやべの経営状況報告について

意見書(議員提出)

◎震災からの復興に向けた補正予算の早期編成を求める意見書

国会及び政府に対して、地方自治法第99条の規定に基づき、平成23年6月24日に意見書を提出しました。

人事案件

◎小矢部市固定資産評価員の選任同意

松本 信明 氏
(末友)

◎小矢部市農業委員会委員の推薦

尾山 喜次 議員
(西中野)

砂田 喜昭 議員
(七社)

中村 重樹 議員
(津沢)

陳情の処理状況

次のとおり、陳情の処理を行いました。

受理番号	件 名 (陳 情 者)	審査結果
陳情第1号	地方住民の安心・安全を支える行政サービスの拡充を求める陳情書 (富山県国家公務員労働組合協議会議長 吉野 隆之ほか2名)	保 留

代 表 質 問

創生会 尾山 喜次 議員

◎東日本大震災を踏まえての本市の防災対策等について

【問】災害に対しての日頃の心構えや訓練、防災教育についてどのようになっているのか。志賀原発は本市から35kmの距離にあるが、万一が事故が起きた場合の対応策を伺う。

【答】本市では平成22年に「小矢部地域防災計画」を大幅に改正した。今後とも防災リーダーの人材育成、さらに、地域の防災活動を担う自主防災組織の育成にも努める。志賀原発で福島第一原発と同様の事故が発生すれば、本市が計画避難区域に指定されることが想定される。地域防災計画の中で対応を検討したい。

◎石動駅周辺の開発等について

【問】石動駅南土地区画整理事業の進捗状況はどうか。また、石動駅を南北に結ぶ自由通路の設置について伺う。

【答】当事業の進捗率は、事業費ベースで平成22年度末に約27%、平成23年度末には39%を予定している。駅南と既成中心市街地との一体化を図るため、南北自由通路の整備は大変重要であると考えており、平成24年度に新たに組織される並行在来線運営会社に対して、

この計画を説明したい。

◎新幹線開通に伴う並行在来線について

【問】並行在来線は各県ごとに第三セクターでの運営が計画されているが、石動駅のこれまで以上の特定の停車、料金体制の維持、通勤・通学時間帯の利便性の確保、各県ごとではなく運行を統一して総合的に管理するようにしてはどうか。

【答】特急列車の停車及び石川県との統一的な運賃体制の要請に対し、知事からは、特急が廃止にならないようにJRに働きかけるとともに、石川県と相談し乗り継ぎの割引制度について、努力すると回答された。また、通勤通学時間帯の利便性は、利用実態に即して利便性を確保し、利用者増と収支の改善に努める、運行管理も信頼性の高い既存システムを活用するとの考え方が示された。

◎縄文シティサミットの開催等について

【問】縄文シティサミットが、本市で10月1日、2日に開催されるが、本市の歴史と文化のまちを全国に発信する絶好の機会であり、効果のある大会として欲しい。また、桜町遺跡出土品の常設展示館を縄文パーク内で造ってはどうか。

【答】サミットの開催を通じて、桜

町遺跡を初めとする全国の縄文遺跡の魅力や歴史的意義を市内外に情報発信し、併せて義仲・巴の大河ドラマ誘致など、本市のPRにも努めたい。常設展示館の建設はまず、出土品が国重要文化財に指定されることが重要であり、その上で、市民要望や財源見通しが立った段階で、展示施設のあり方を検討したい。

◎小矢部市の観光並びに大河ドラマ化等について

【問】本市の三大祭りの保存と伝承について検討委員会が設置されているが、どのように運営されているのか。また、津沢夜高あんどんの展示場の建設を検討してはどうかについて伺う。

【答】平成22年12月と平成23年2月に委員会を開催し、今後の三大祭り保存伝承の検討を行っている。2月の委員会では市制50周年を記念した三大祭り合同の記念イベントの開催が提案された。平成23年度の委員会において、各団体における課題等を協議したい。津沢夜高あんどん常設展示場は、現在、施設規模のあり方や設置場所の確保の可否、建設財源の確保や運営組織の確立などを調査しており、引き続き検討を進めたい。

【問】木曾義仲と巴御前のNHK大河ドラマ化を新幹線の開通と併せて実現したいとのことだが、現在

どのような運動を展開しているのか。

【答】平成23年度は大河ドラマ化の署名活動を計画しており、広域連携推進会議に諮り、全国的規模で展開し、多くの熱意をNHKに伝えたい。

◎減反政策とTPPについて

【問】平成22年度の米は35%以上減反されている。米価も下落し、農家の収入が下がる一方である。本市の今後の農業施策をどのように考えているのか。

【答】圃場の集約化を進めるなど、生産コストの引き下げを継続するとともに、特産品作物の生産を通じて、複合経営化への取り組みを推進する。

【問】TPP（環太平洋連携協定）の参加によって、自給率は現在の40%が14%に大幅に落ち込み、経済損失は日本全体で四兆一千億円になると言われている。農業は食生活だけでなく、多面的機能を持つている。農業や地域社会が崩壊し、日本全体がだめになると思うがどうか。

【答】TPPへの参加は、農業生産や地域経済等に関して、極めて大きな影響を及ぼすことになり、農業が基幹産業の本市では、その影響は深刻なものになると認識している。

代 表 質 問

新風会 藤本 雅明 議員

◎東日本大震災における小矢部市への影響、支援について

【問】国・県からの交付金、補助金等の減額はないのか、商工業への影響はどうか。被災地への支援はどうか。

【答】4月1日政府の閣議決定により、復興経費に充てるため、公共事業の執行は5%留保する方針が示された。当市への影響の主なものとして、下水道整備事業33.5%、道路整備事業2.4%、それぞれ予算額に比べて国庫補助金が減額された。市内企業における影響は、市独自の調査により7割以上が「影響がある」、「少しは影響がある」との回答があった。融資等により商工業者への支援を行う。被災地への支援は、人的支援のほか、東松島市へ消臭下着4,600枚、そうめん130箱と義援金、福島県大熊町へ自転車35台、メルヘン米200袋発送予定である。また、市内への避難者に対してもきめ細かな支援を行いたい。

◎災害時の行政のあり方について

【問】想定外の大災害となった東日本大震災と同等規模の災害が発生しないと断言できないと考える。本市の防災対策の見直しは必至と

思われるが、具体的な対応策はどうか。また、放射能の線量を測定したことがあるのか。

【答】本市は標高22m以上あり、津波による直接の被害はないと考えられているが、原子力災害については、東日本大震災を教訓とし、今後、国・県等の防災計画の見直しとともに、本市の地域防災計画の見直しを行うとともに、対応マニュアルの周知徹底を図る。また、放射能の線量計は、整備を検討したい。

◎教育・子育て環境の充実に

【問】防災教育は、子供たちに防災に対する知識、意識面において認識が薄いことや災害の恐ろしさに気づかせる大切な教育と考える。本市の防災教育はどうか。

【答】平成21年度から新学習指導要領を先行実施する形で、小・中学校の教育計画に安全指導の項目を盛り込んでいく。また避難訓練では、「自分の命は自分で守る」を目標に災害発生時に安全な行動ができるよう、年4回程度訓練を実施している。

【問】小学生に農業への関心を持つてもらい、担い手育成にもつなげる小学校に教科として農業科を設置する取り組みはどうか。

【答】学校の授業は、学習指導要領に基づき進めることになっていることや、農業科を設置する場合に

は、保護者、耕作地の所有者、地域での協力者の理解が必要であり、小中学校校長会で検討させていた

◎小矢部市の節電対策について

【問】東日本大震災を受け、全国で節電に対して色々な取り組みをされている。本市の具体的な節電対策はどうか。

【答】今夏は平成22年度と比較して15%の節電を目指し、節電対策に取り組んでいる。庁舎内の冷房温度を徹底して守るとともに、クールビズの期間延長、事務室等の照明の間引きをさらに進め、時間外勤務の縮減、終業時の一斉消灯などを実施し節電に努める。

◎自然エネルギーの利用促進について

【問】第六次総合計画に示された本市にある自然エネルギーの可能性を再発見して、利用促進を今こそ進めるべきだと考えるがどうか。

【答】風力、水力、太陽光の3つが考えられるが、まず、風力は稲葉山山頂に風力発電設備3基が既に稼働しているが、今後新たな事業が実施される際には、市としても事業の推進に協力したい。水力は要素を満たす水路などが少ないことから建設に至っていない。太陽光は各家庭での発電の導入に助成を行っている。

◎義仲・巴大河ドラマ誘致運動について

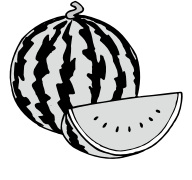
【問】観光は義仲・巴で一点突破と、平成23年度観光振興課内に「義仲・巴プロジェクト推進班」を新設し、ハード・ソフト両面の施策を展開し、大河ドラマの誘致を目指すとのことだが、具体的にどう推進するのか。

【答】観光客受入の充実を図るため、無料の観光周遊バス「義仲・巴号」を運行し、2次交通として利用していただいている。さらに、古道の整備や俱利伽羅源平の郷土産物を物販、飲食施設として改修している。

◎石動駅周辺整備について

【問】本市の玄関口である石動駅の南北自由通路建設に時間を要するのならば、駅南土地区画整理事業の事業成果をできるだけ市民に提供するために、石動駅南側改札口を優先的に設置することを前向きに検討すればどうか。

【答】石動駅周辺整備計画(案)を市民のみならずからパブリックコメントなどを活用し、広く意見を取り入れ、計画に反映させたい。



一般質問

◎ 質問者 白井 中 議員

【問】志賀原子力発電所は、電力の安定供給の面で極めて重要な電源であるが、安心安全な防災対策が施されるまで当分の間、ストップするよう近隣市町村と一緒に働きかけるべきではないか。

【答】福島第一原発の検証結果、国の安全強化策を見極める必要がある。何より大事なことは、本市とともに近隣自治体に対して、北陸電力志賀原発の安全性について、北陸電力が十分な説明責任を果たす事だと考えている。なお、近隣自治体においても考え方は様々であり、同一行動をとることは難しいと考えている。

【問】今夏は例年に比べ1割から2割ほど電力不足が指摘されているが、市当局の節電に対する取り組みとその目標はどうか伺う。

【答】今年の夏は「15%の節電を目標として」を合い言葉に、冷房、照明、パソコンその他電気製品のさらなる節減、電力使用量ピーク時における電気量の節減及び時間外勤務の縮減の取り組みを実施している。さらに、毎日の電気使用量実績を掲示板に掲示することにより、職員節電意識を高めたい。

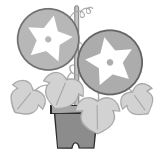
【問】これまで発生した大地震を教訓として本市の防災対策を見直し、防災、減災の取り組みを強化する必要があるのではないかと伺う。

【答】今回の大震災を教訓に、今後、国・県等の防災計画の見直しをもとに、地域防災計画の見直しを行う。災害発生時の自主防災組織や消防団の初期対応が最も重要である。これらの組織をより充実する必要がある、災害用具等の備品を充実、消防団員の確保に努めたい。さらに、住宅の耐震診断及び耐震改修支援事業の有効な活用についても十分周知し、減災対策の強化に努めたい。

【問】学校の授業の中に、防災・減災対策の取り組みに関するカリキュラムを一層充実するべきだと考えるがどうか。

【答】減災対策を含めた防災教育は、非常に大切なことだと考えている。現在、社会科や理科などの授業において地震や津波のメカニズムについての学習をしている。

※その他、次の質問がありました。「自主防災組織等における防災対策の見直しと強化」、「防災・減災意識の啓発」について



◎ 質問者 嶋田 幸恵 議員

【問】活断層である「石動断層」の被害をどのように想定しているのか伺う。

【答】平成7年度と平成9年度から平成11年度の富山県の調査を初め、これまでの調査研究成果に基づき文部科学省所管の地震調査委員会からM7.2程度の地震が発生する可能性は、長期確率には幅があるが、30年では0%から3%、100年で0%から10%の確率とされている。30年間に地震の発生する可能性は、日本の活断層の中では高いグループに属している。

【問】災害時における市民の関心が高いのは備蓄であるが、備蓄量の決め方はどうか。また、保管場所、管理点検はどうか。

【答】阪神・淡路大地震における西宮市での避難率8%を参考として想定した2,640人の避難者の3日間の食料と1人1枚の毛布、簡易トイレ等を計画的に整備している。保管場所は、桜町遺跡出土木製品管理センターで、賞味期限等の定期点検に努める。

【問】子供たちの防災学習に震災を体験した語り部を呼んで、学習をさせてはどうか伺う。

【答】学校においては、防災学習の中でビデオの視聴による地震の恐ろしさを体験している。語り部というのも一つのいい方法だと思っておりますので、校長会等に申し上げたい。

【問】各学校の図書費の配分に違いがあるのはなぜか。学校同士で本を回すことはできないのか。

【答】各学校への配分は、生徒数で案分して配当している。本市では平成14年度に学校間、それと学校と市民図書館をオンラインで結ぶ「図書検索システム」を構築し、各施設間のネットワークを形成、市蔵書データを共有することが可能となり、学校間同士の有効利用が図られている。

【問】津沢夜高、獅子舞、曳山などのミニグッズを道の駅で販売してはどうか。

【答】津沢夜高の関連グッズを道の駅で販売することは、テナント業者と商工会女性部津沢支部とが既に協議されていると聞いている。市の観光振興につながると大いに期待している。獅子舞や曳山についても、主催者に提案したい。

※その他、次の質問がありました。「高齢者福祉」、「義仲・巴の能楽」について

一 般 質 問

◎ 質問者 砂田 喜昭 議員

【問】夏場の電力ピーク時への対策などは必要だろうか、原発からの撤退というのは決して無理なことではない。是非原発からの撤退ということを決断すべきだと思いがどうか。

【答】原発の国内発電量は30%を占めている。代替エネルギーの確立には相当の時間がかかることと言われており、長期的には太陽光など再生可能エネルギーの比率を大幅に高めて原子力、あるいはそういう化石燃料による依存度を下げていくべきだろうと思っている。

【問】志賀原発の運転再開について、現在の仕組みでは本市が意見表明する権限がないが、福島原発事故があることから、本市が積極的に関与し、意見表明すべきでないか。

【答】北陸電力からは今後2年の期間により事故防止対策に努めていくと説明を受けている。運転再開には、安全対策を講じることはもちろんのこと、住民への説明責任も果たしていくことが条件と考えられており、北陸電力による住民説明会等の開催を要望したい。

【問】本市防災計画の見直しのスケジュールはどうなっているのか。

【答】地域防災計画の見直しは、平成23年度の重点要望において、国及び県に要望する予定である。E P Z(防災対策を重点的に充実すべき地域の範囲)の見直しが大きなものとなることから、国及び県の防災計画を参考にしながら、できるだけ早く見直しをしたい。

【問】液化化危険予想区域をいつまで指定するのかについて伺う。

【答】市内には点在するボーリングのデータも多々あり、メッシュ状に組み立ててつくることは可能であることから、マップを作成したいと思っている。個人住宅における対策の指針についても、早い時期に作成したい。

【問】本市の学校及び保育所の耐震化を完了するためには、どのくらいの事業費が必要なのか。

【答】学校が2箇所、3億2,500万円、保育所は1箇所、1,700万円と試算している。石動小学校の改築完了後、順次耐震補強を進める。

*その他、次の質問がありました。
「エネルギーの地産地消とバイオマスタウン構想」、「石動駅の橋上化と自由通路」について

◎ 質問者 島田 一朗 議員

【問】東北地方の震災だが、これは人災だと思いか、それとも自然災害なのか見解を伺う。

【答】今度の東日本大震災は、5つの複合的な地震の典型例と思っている。一つには、地震による被害、それから、津波による被害、それからそれに伴う原子力発電の被害、それから風評被害、そしてもう一つはサプライチェーン、そういった供給網がずたずたに寸断されたことの5つの要因があると思っている。天災か人災かということになると、複合的な災害だと思っている。

【問】小矢部東インター高速バス乗り場に環境を配慮したトイレの設置について伺う。

【答】トイレの設置は、現在の駐車場のスペースでは物理的に難しいと考えている。また、簡易型のトイレの設置は、防犯上、並びに水源、汚水の処理等の管理上の問題が想定される。近くにある能越自動車道管理事務所、朝6時から午後9時までトイレ利用が可能であることを本停留所内に表記したい。

*小矢部東インター高速バス乗り場



【問】ボランティアは全て体をかけて手弁当と思っていたが、大震災に有償ボランティアの活動が報じられていた。本市の有償ボランティアについての見解を伺う。

【答】有償ボランティア導入の背景として、ボランティア活動を継続的に行っていくために、ある程度の資金が必要となることから、無償では限界がある。さらにボランティアを行う側の責任感が育ちにくく、サービスを安定的に供給することが困難になる。本市では、市民と行政との協働のまちづくりを進めているところであり、今後、有償ボランティアを導入する場合、どのような形が望ましいか、調査研究を行っていく。

一 般 質 問

◎ 質問者 義浦 英昭 議員

【問】農産物振興事業の中での農業特産物推進協議会の現状と今後の取り組み、展開について伺う。

【答】当協議会には、24団体が加盟されており、食の王国フェスタ、水見キトキト祭り、小矢部市農業祭、小矢部市・沼田町農産物フェアなど、市内外の農業や観光イベントに参加し、特産物の販売及びPRをしている。平成21年度からは、事務局職員を1名雇用し、ホームページによる10箇所の直売所などの紹介、また、特産品販売施設への売り込みや会員によるインターネット販売の調整を行うなど、販路拡大に努めている。

【問】義仲・巴関連事業として、観光周遊バス運行が開始されたが、周知のための取り組み状況はどうか。また、利用者の状況はどうか伺う。

【答】PRについては、当初1万枚の宣伝用チラシを作成し、県内外の旅行業者に配付した。また、観光出向宣伝の際にもこのチラシを配付している。加えて関東方面での新聞広告に載せて、周知に努めている。また、JRとのタイアップチラシの作成を進めており、完

成次第、北陸地区内外の主要駅に配置する予定である。また、周遊バスは4月15日から運行開始して以来、31日間で570名が乗車している。

【問】平成21年5月より、小矢部市観光協会の事務局を独立させ、積極的に各種事業を実施しているが、この2年間どのような活動、取り組みをしているのかについて伺う。

【答】小矢部市観光協会には、国の雇用対策補助金等を活用し、3人の専任職員を採用し、観光宣伝事業の実施、楽しいイベントの仕掛け、観光客の受入体制の整備、組織体制の整備・充実に柱とする各種事業を展開していると伺う。

特に、東海北陸自動車道の全線開通を契機として、平成21年度から市と観光協会とが連携して実施している「おやべの日」の開催を初め、市内で開催される祭りやイベントにおける臨時観光案内所の開設、石動駅観光案内所の運営など、様々な取り組みを通じて、観光客のニーズに応えるためのPR活動を展開している。



◎ 質問者 吉田 康弘 議員

【問】市内の空き店舗と意欲のある事業者のマッチングがないため商店街等振興事業補助金交付制度は利用されていないと言ふことだが、市内の空き店舗数をどの程度把握しているのか伺う。

【答】今回の制度については、既存店舗のリニューアルされる場合にも補助対象としており、一部対象外の業種はあるが、現在営業されている店舗全てが対象であることから石動地区では、140店舗ほど把握している。空き店舗の状況は昨年12月に小矢部市商工会において現地調査された結果では14店舗という報告がされている。ただ、これらは建物所有者の意向を確認していないことから、今後商工会とタイアップして所有者の方の将来の活用方法についての調査を予定している。

【問】新たな事業を興す意欲のある起業予定者の見込みについて伺う。

【答】近年は、若者を中心に個人でお店を開きたいという意欲的な方が若干増えてきている。例年、商工会への企業向け経営相談に訪れる方やインキュベーターの入居問

い合わせもある。また、補助制度の発足後において、市内不動産業者や県内の商業施設コンサルタンの業者からの問い合わせが続いていることから、空き店舗などへの新規出店に期待を寄せている。

【問】市内消費を喚起するため、地域振興券の発行と商工博の開催について伺う。

【答】中心市街地の賑わい創出と商業の活性化に向け、商工団体との意見交換などの機会を通じ、相談していきたい。

【問】平成23年度から始まった観光推進新規事業の取り組み状況はどうか伺う。

【答】観光資源の磨き上げ、あるいは分散する観光資源の接合、そして小矢部市商工会との連携など本市が抱えている課題を解決する上で有用な事業である。今後も、新規事業にも積極的に取り組む中で、観光宣伝や観光案内の強化、観光資源の整備、観光客受入体制の充実、加えてNHK大河ドラマ化の誘致など、様々な事業を一体的に進めることにより、観光客、交流人口の更なる増加に努めたい。

第2回「議会報告会」を開催しました。

昨年10月に引き続き2回目となる小矢部市議会議会報告会は、平成23年5月19日（木）午後7時から、小矢部市総合会館と小矢部市津沢コミュニティプラザの2会場で約80名の市民の参加をいただき開催しました。

今回は、各議員から平成23年度予算、防災対策、消防の広域化等について報告した後、参加者と意見交換を行いました。



石動会場



津沢会場

議会報告会のアンケート結果

議会報告会では、参加された市民にアンケートを記入していただき、次のような貴重なご意見をいただきました。

■ 石動会場参加者からは、

- ・ 予算の報告については、概略説明よりも政策等における議会としての考え方を説明してほしい。
- ・ 議会報告会の開催については、4中学校区での順次開催を考えてほしい。
- ・ 義仲・巴関連事業として観光周遊バス運行事業が開始されたが、費用対効果を十分に検証してほしい。
- ・ 行政視察した先進的な内容について、取り入れられるものはすぐに実践してほしい。

■ 津沢会場参加者からは、

- ・ 前年度より大幅増加となった下水道事業特別会計予算における事業内容について説明して欲しい。
- ・ 消防広域化において、デメリットについての議論があったのかどうか。また、高齢者等災害時要援護者の安否確認はどのようになったのか。
- ・ 災害時における情報伝達手段の整備をしてほしい。

など活発な意見等が出され、予定時間を上回る報告会となりました。

今後とも、貴重なご意見を活かすとともに、議会基本条例に基づき議会がより市民に身近なものへとなるよう積極的に取り組んでいきます。

委員会報告

各委員会の審議過程の中で、市当局に対し、次の意見がありました。

総務常任委員会

一点目は、災害時備蓄品の食料並びに飲料水等については、保存年限を適正に管理するとともに、防災訓練での配布等を通じて、市民の防災に対する意識が深まるよう啓発活動に積極的に取り組むこと。

二点目は、現在、本市には、「富山県自主防災アドバイザー」として、三名が登録され、自主防災組織に対する支援活動を行っているが、更なる防災リーダーの増員等防災力の強化に取り組むこと。

三点目は、東日本大震災による未曾有の原子力発電所事故が発生したが、本市は、志賀原子力発電所の三十五キロ圏内であり、安全対策について早急に市民に説明し、市民の安心安全に努めること。
四点目は、夏場を迎え電力不足が懸念されていることから、行政が率先して、

更なる節電対策に取り組むこと。

産業建設常任委員会

観光周遊バス「義仲・巴号」運行をはじめとした新たな観光振興事業を実施されているが、従来の観光宣伝手法に留まらず、柔軟かつ、発展的な考え方で、実績を上げられるよう創意工夫され、迅速で効果的な事業展開を図ること。また、義仲・巴大河ドラマ誘致に向け、新たに強化された組織を生かし、市民が観光・集客の効果を実感できるように、全力で取り組み、その力を発揮すること。

民生文教常任委員会

一点目は、東日本大震災で公共施設が大きな被害を受けたことを踏まえて、公共施設の安全性の確保が極めて重要である。平成二十二年三月に「小矢部市耐震改修促進計画」を策定し、児童の安全を最優先とし、順次耐震化を進めているが、民生部並びに教育委員会が所管する保育所、小・中学校等施設における

耐震化の状況は、対象施設九十一件の内、耐震化対策済の施設七十四件、耐震化未対策の施設十件、未調査のものが七件となっている。今後耐震化対策の改修工事について平成二十七年までに九十%を目指すとしているが、耐震化未対策施設の改修工事は年次計画を立てて順次進め、未調査の施設については早急に耐震診断を実施すること、また、総合会館等、人が多く利用する施設でも耐震化を進めていくこと。

二点目は、東京電力福島第一原子力発電所の事故で夏の電力不足が懸念されているが、地球温暖化が進み、世界的に環境問題への関心が高まる中、自然エネルギーの有効活用が求められている。現在、石動中学校、津沢中学校に太陽光発電システムを導入、稼働しており、節電効果として使用電力量の約十%の電力量削減につながっていることから、石動小学校耐震改修工事においても是非太陽光発電システムの導入を検討すること。また、児童への環境教育等を考慮し、自然エネルギー利用や節電、省エネルギーをめざす太陽光発電、

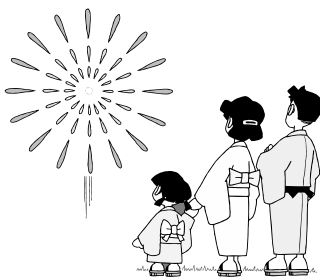
屋根面の雨水利用、LED照明、人感センサー等の設備の設置、及びトップライトや高窓の設置等により教育施設への自然エネルギーやバイオマス利用を促し、積極的に取り入れていくこと。

傍聴のお知らせ

市議会では、市民の皆様
の傍聴をお待ちしております。

本会議を傍聴されたい方は、会議当日、議会事務局にて傍聴券の交付を受けてください。約50名の傍聴が可能です。

また、各常任・特別委員会を傍聴されたい方は、開議時刻の1時間前から30分前までの間に、議会事務局で傍聴の申し込みをしてください。定員は先着5名です。



9月定例会の日程

太字はCATVの放送予定

5日(月) 10時 本会議

7日(水) 10時 本会議(提案理由説明)

全員協議会

8日(木) 議案調査日

9日(金) 議案調査日

12日(月) 議案調査日

13日(火) 9時 議会運営委員会

10時 本会議(代表・一般質問)

14日(水) 10時 本会議(一般質問)

15日(木) 10時 行財政改革特別委員会

14時 民生文教常任委員会

16日(金) 10時 まちづくり特別委員会

14時 産業建設常任委員会

20日(火) 10時 決算特別委員会

14時 総務常任委員会

21日(水) 14時 委員長会議

22日(木) 10時 議会運営委員会

13時 全員協議会

15時 本会議(質疑・討論 表決)

会 務 報 告

平成23年3月25日から平成23年6月9日まで

年月日	件 名	摘 要	開催地
23. 3.25	砺波地域消防組合運営協議会	・ 条例・予算（案）の協議について	砺波市
3.28	高岡地区広域圏事務組合議会	・ 予算（案）・分担金等について	高岡市
3.29	第1回砺波地域消防組合議会臨時会	・ 条例・予算（案）等について	砺波市
4. 4	高岡地区広域圏事務組合議会議員協議会	・ 高岡地区広域圏ごみ処理施設 建設工事の事業者選定について	高岡市
4. 7	第86回北信越市議会議長会定期総会	・ 事業報告、予算議案、役員改選等	長野県長野市
4.27	4月全員協議会	・ 行政委員会等の会務報告 ・ 東日本大震災被災地支援と派遣職員激励他 11 件 について報告	第一委員会室
	議会だより編集委員会	・ 第 161 号発行について	第二委員会室
5. 9	産業建設常任委員会	・ 付託陳情の審査（継続審査）1 件 ・ 石動曳山祭りシャトルバス利用実績等について 報告	第二委員会室
	民生文教常任委員会	・ 消費生活相談員の設置他 4 件について報告	第二委員会室
5.11	まちづくり特別委員会	・ 並行在来線対策について	第二委員会室
5.16	総務常任委員会	・ 砺波地域消防組合現地視察 ・ 小矢部市建設業者競争入札の格付け基準及び指 名基準他 3 件について報告	砺波市 第二委員会室
5.17 ～ 18	総務常任委員会行政視察	・ 実践的な防災対策と安全・安心な市民協働・減 災社会の取組み ・ 阪神・淡路大震災時の状況 ・ 震災後における防災対策の取組み	兵庫県神戸市 〃 淡路市
5.19	議会報告会	・ 平成 23 年度予算について ・ 防災対策について ・ 消防の広域化について	小矢部市総合会館 津沢コミュニティプラザ
5.23	砺波地方衛生施設組合臨時議会	・ 議長、副議長、監査委員の選任	砺波市
5.27	5月全員協議会	・ 行政委員会等の会務報告 ・ 小矢部市商店街等振興事業補助金交付制度他 2 件について報告	第一委員会室
6. 3	議会運営委員会	・ 平成 23 年 6 月小矢部市議会定例会提出議案等 について	第二委員会室

編集後記

2 回目の「議会報告会」の開催に際し、市民の皆様方から大変貴重なご意見をいただきました。皆様
の声をより一層市政に反映
させていきたいと考えてい
ます。

今後とも、議会がより
市民に身近なものとなる
よう「開かれた議会」を
目指し、市政に関する報
告と議会基本条例に基づ
き市民からの意見を伺う
議会報告会を開催し、今
後の議会活動の活性化を
推進していきますので、市
民の皆様からの多くのご
意見・ご感想をお待ちし
ております。

次回の「議会だより」は、
平成23年11月の予定です。
（議会だより編集委員一同）

